

学校法人 文徳学園  
令和6年度 文徳高等学校・中学校評価表

1 教育方針

- 建学の精神に則り「体・徳・智」の調和のとれた、科学的思考のできる人材を育成する。
- 学問を好み、学力充実のために刻苦勉励し、併せて、人徳を備えた人材を育成する。
- 人の立場を理解し、自己抑制の効いた、思いやりや優しさを備え、人のために汗を流せる、奉仕精神旺盛な人材を育成する。
- 多様化する社会の中で、不撓不屈の精神をもってリーダーシップを発揮できる人材を育成する。

2 本年度の教育重点目標

- 4つの生活信条「奉仕精神を旺盛にする」、「人の立場を深く理解する」、「物を大切にする」、「礼儀作法を実践する」を実践し、心豊かで社会に貢献できる人材の育成を図る。
- 学習指導、進路指導、生活指導、広報活動の更なる充実を図る。
- 施設設備の充実、教育環境の整備を図る。
- 生徒の諸活動(学校行事、部活動、生徒会活動)の充実を図る。

3 自己評価総括表

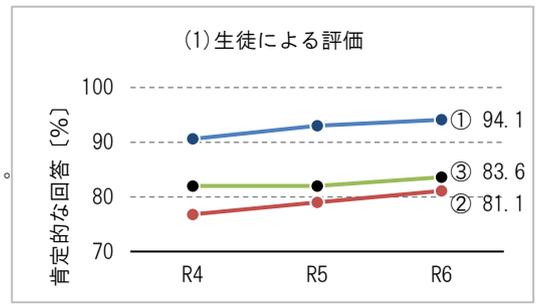
評価項目		評価の観点(具体的目標)	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
学校経営	特色ある学校づくり	①建学の精神に基づいて、体・徳・智の調和のとれた科学的思考のできる人材を育成する。 ②生徒一人一人の個性を生かした教育活動を展開する。	○スクールミッション・スクールポリシーを策定する。 ○中学校が国際バカロレア (IB) MYP候補校として準備を進める。	A	○ミッション・ポリシーを策定し「卒業までに身に付けたい19の力」についてルーブリックを作成した。令和7年度から諸教育活動の評価軸として活用する。 ○中学校がMYP候補校の認定を得た。冬休みに教職員25名が2日間のワークショップに参加した。県外の先進校(7校)の視察を行った。
	開かれた学校づくり	③学校理解を進めるために情報発信を活発にする。 ④保護者、地域及び関係機関との連携を図る。	○中学生とその保護者を対象に学校見学ツアーを実施する。 ○学校のHP、公式YouTube、公式Instagram、広報誌「文徳点描」で情報発信を行う。 ○PTA、同窓会、学校評議員、地域等と連携し、生徒支援の教育活動を推進する。	A	○学校見学ツアー参加者は前年度を上回り1349人。ツアーガイドを担う教員の負担増が課題である。次年度は部活動体験と連動して展開したい。 ○公式YouTube(登録者数1590人)への投稿35回、公式Instagram(登録者数827人)への投稿14回、学校HPブログ「文徳ing」への投稿188回を重ねた。一方で広報誌「文徳点描」の発行は4回に留まった。 ○総合的な探究の時間の取組で、大学や企業など20機関と連携し、生徒の学びを深めることができた。
	教育環境の整備	⑤教育環境整備を推進する。 ⑥計画的に施設整備を点検し、危険箇所等の早期発見、早期対応を図る。	○文徳寮(築27年)の照明器具499台のLED取替工事を行う。 ○1号館(築28年)外壁に一部落下が見受けられたため補修工事を行う。	A	○施工業者との連絡を密に取り、計画通りに工事を完了した。
学力向上	授業力の向上	①学習指導方法の工夫・改善を施し、授業の充実を図る。 ②ICT機器を利用した授業を通じて情報リテラシーを身に付けさせる。	○シラバスで授業進度や評価基準を明確にし、授業評価アンケートや授業公開WEEKを実施する。 ○ICT機器のより有効な活用のための職員研修を行う	B	○授業評価アンケートを担当者にフィードバックを行い、授業改善を促した。 ○授業公開WEEKでは、ICT機器を用いた新しい授業モデルに挑戦した。校外研修会への参加を活発にしたい。
	学習習慣	③自ら学び、意欲的に授業に参加する生徒を育てる。 ④計画的な家庭学習への取組を通じて課題解決能力を養う。	○朝学習でAIドリルすららを活用する。 ○スケジュール管理のためにGoogleCalendar(生徒用)を共有する。	B	○各学年で朝学習に計画的に取り組み、すららの活用状況が大きく向上した。基礎学力定着の実感を持たせたい。 ○GoogleCalendarの生徒の共有状況は把握できていない。行事予定表(紙面)の教室掲示との併用を継続する。
	読書指導	⑤自発的に図書室を訪れ読書に喜びを感じる心豊かな生徒を育てる。 ⑥図書委員会の活動に主体的に取り組む生徒を育てる。	○読書アンケートを実施し、生徒の読書状況の把握や購入図書リクエストを募る。 ○図書委員会による図書だよりの作成や、読書週間の校内放送を行う。	B	○アンケートでリクエストがあった図書や各文芸賞の受賞作品など591冊を購入した。「先生方のおすすめの本」コーナーを設けたところ、関心を示し本を手にする生徒が多かった。 ○図書だよりで新着図書の紹介を行った。貸出数は前年より増加した。 ○総合的な探究や小論文対策での利用に向けて書架の整理を行った。情報センターとしての機能向上を目指したい。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	爽やかなあいさつができる生徒、身だしなみを整え学習や部活動に全力を尽くす生徒、自己の役割に責任を持つ生徒、交通ルールを守り譲り合いの精神を持つ生徒、母校愛に溢れる生徒を育てる。	○全教員で整容指導や登下校指導を行う。 ○校内美化コンクールの開催 ○学校交通安全日の取組を通じて交通ルール遵守を呼びかける。 ○校外の諸機関と連携した講演会を通じて、安全意識を啓発する。	A	○教員から積極的にあいさつをし、整容・清掃指導に粘り強く取り組むことで、生徒の変化を感じる場面が増えた。 ○熊本市自転車安全利用モデル校の認定を受けてヘルメット30個が贈呈された。啓発活動を継続し着用率を向上させたい。 ○少年犯罪防止講話、交通安全教室、インターネット犯罪防止講演会を実施した。

<p>キャリア教育 (進路指導)</p>	<p>進路目標設定 進路情報提供</p>	<p>①自己の在り方生き方を考え主体的に進路を選択する生徒を育てる。 ②進路実現のための取組を自分で考え実行する生徒を育てる。 ③自らの学習状況を把握し学習の進め方を調整する生徒を育てる。</p>	<p>○進路講演会や体験活動等の行事を計画的に行う。 ○キャリアパスポートを用いて対話的に生徒と関わる。 ○定期的に成績検討会を実施し教科指導のPDCAを検証する。 ○コースの特色に合わせたキャリア教育を推進する。</p>	<p>B</p> <p>○3年間の進路指導計画の見直しを行った。 ○キャリアパスポートの改訂を行った。自己認知力を高めるような取組事例を重ねていきたい。 ○定期的に成績検討会を行い、LHRでのフィードバックを充実させた。 ○放課後課外(希望制)は予想より受講者数が少なかったが、受講した生徒は積極的な姿勢であった。振り返りアンケート等を分析して主体的な学びを促していきたい。 ○理工科でコロナ禍で中断していたインターンシップを行った。検定や資格試験の合格が生徒のやる気に繋がった一方で、学習会の効果が得られなかった場面があり改善を要する。</p>
<p>人権教育の推進</p>	<p>人権教育を推進し、豊かな人間性を育む。</p>	<p>①他者への思いやりをもって対応できる人間を育成する。 ②命を大切にすることを育む教育を行う。</p>	<p>○人権同和教育委講演会を実施する。 ○標語やメッセージ募集への応募を通じた人権意識の啓発を行う。</p>	<p>A</p> <p>○義足ダンサーの大前光市さんの講演会に、生徒たちはとても感銘を受けた。学びを深めるための事前学習があるとさらに良かった。 ○人権啓発作品標語募集に前年より多くの応募があった。 ○全国高校統一応募用紙の意義について全職員と3年生に発信した。</p>
<p>いじめの防止等</p>	<p>「いじめ」の未然防止・早期発見・迅速な対応</p>	<p>①いじめのない学校・クラスを目指す意識を持ち、他者への心配りができる生徒を育てる。 ②不安や悩みを抱えたときに、自ら級友・教員・保護者等に相談できる生徒を育てる。</p>	<p>○インターネット犯罪防止講演会を通じて他者を思いやる教育を推進する。 ○心のアンケートを通じていじめの早期発見に努め、対応する。 ○いじめ対策委員会で生徒の状況を把握し、迅速な対応を行う。</p>	<p>B</p> <p>○講演会での学びに加えて、生徒が主体的に考え行動する機会を増やしていく。 ○心のアンケートで「今の学年でいじめられたことがある」という回答があったが、早期の対応により解消することができた。いじめの潜在化を防ぐためにアンケートの実施時期を検討する必要がある。 ○前年度の事案についていじめ対策委員会を2回催した。</p>
<p>健康教育</p>	<p>健康で安全な生活</p>	<p>①自己理解を図り、自主的に健康管理ができる生徒を育成する(1限目開始前の健康観察入力100%、受診報告書の回収率50%)。 ②集団としての健康問題を自ら解決していこうとする生徒を育成する。</p>	<p>○職員朝会で健康観察入力指導の呼びかけを行う。受診報告者一覧をクラス担任に配付し、長期休暇前の集会で生徒に受診を呼びかける。 ○生徒会保健委員会による保健だよりの定期発行を行う。</p>	<p>B</p> <p>○1限目開始前の健康観察入力は平均で約50%、受診報告書の提出は30%。自己管理の意義をより丁寧に説明する必要がある。 ○保健だよりを隔月で作成し、紙面の掲示とタブレット端末での配付により周知を図った。</p>
<p>教育環境の整備</p>	<p>教育環境の整備</p>	<p>③全ての生徒が安心して学校生活を送ることができる環境を整備する。</p>	<p>○中学校と入学前の情報引継を行い、支援の早期対応につなげる。 ○ケース会議におけるSC・SSWの専門的な助言を基に、必要かつ適切な支援を行う。 ○コロナ禍で中断していた避難訓練を実施する。</p>	<p>B</p> <p>○教科担当者との生徒情報の共有が不十分だった場面がある。定期的に共有する機会を設けたい。 ○ケース会議を通じて関係機関との連携に至った事案があった。 ○避難訓練は残暑が厳しかったため教室で経路確認を行った。実施時期を見直す。</p>
<p>保護者との連携</p>	<p>文徳会(PTA)活動の円滑な実施および連携</p>	<p>①文徳会総会・学級懇談会を実施する(出席率70%以上)。 ②文徳会行事を対面で実施する。 ③学年保護者会を行う。</p>	<p>○文徳会総会・学級懇談会を実施する。 ○その他の文徳会行事も対面での実施で計画を進める。</p>	<p>A</p> <p>○校内の花植え・あいさつ運動、スポーツ大会・強歩会での補食提供、PTA新聞発行などのPTA委員会活動を事業計画通りに行った。文化祭での飲食物販売には多くのクラス理事の参加を得た。 ○各学年の保護者会(1・2年は年2回、3年は1回)を計画通りに実施した。1年保護者会では地元タレントのスガッシュ★氏、2年保護者会では前熊本県知事の蒲島郁夫氏の講演会を催し、親子で在り方生き方を考える機会を設けた。</p>
<p>特別活動</p>	<p>学校生活、学校行事の充実</p>	<p>①生徒一人一人が学校行事や生徒会行事、学級行事に積極的な姿勢で参加する。 ②生徒会活動の活性化と学校行事の見直しを図る。</p>	<p>○生徒会・各委員会を、生徒が主体性をもって活動しやすいように見直しをする。 ○文化祭やクラスマッチ等の行事の充実を図る。 ○HR活動の時間を通して、生徒の主体性を育てる。</p>	<p>A</p> <p>○定期的に生徒委員会を実施し、日常的に学校生活をよりよくするための活動に継続的に取り組んだ。 ○各学年でLHR年間計画を作成し、学校生活を題材に生徒達が協働する場面を設けるように工夫した。 ○中学校では、生徒会活動で一人一役を担うことで責任感を持って役割を果たそうとする成長が見られた。</p>

#### 4 学校関係者評価

##### (1) 生徒による評価（心のアンケートより）

① 学校が楽しいですか。			
・楽しい・まあまあ楽しい	〔肯定的な回答〕	94.1%	
・あまり楽しくない・楽しくない	〔否定的な回答〕	5.9%	
② スポーツ・音楽・趣味など自信のあることや自慢できるものがある。			
・ある・少しある	〔肯定的な回答〕	81.1%	
・あまりない・ない	〔否定的な回答〕	18.9%	
③ 授業が分かりますか。			
・分かる・まあまあ分かる	〔肯定的な回答〕	83.6%	
・あまり分からない・分からない	〔否定的な回答〕	16.4%	



質問①～③の3カ年推移から、いずれも肯定的な回答が増加傾向にあることがわかる。要因として次のことが考えられる。  
 ・コロナ禍が過ぎ去り、制限されることなく学校生活を送り、諸活動に取り組むことができるようになったこと。  
 ・生徒1台端末の導入から4年を経て、教員・生徒ともにICT機器を活用した学習活動に順応したこと。  
 ・観点別評価が3年目を経て、各授業でアクティブラーニング導入や授業・家庭での学習課題の明確化を通じて、生徒の主体的に学習に取り組む態度が養われつつあること。

##### (2) 学校関係者評価委員による評価

新型コロナウイルス感染症の扱いが2類から5類へ移行したものの、当年も貴校では学級閉鎖を実施されたと聞き、まだまだ感染リスクが下がった訳ではないことを改めて思い知らされた。また、生徒の学校生活におけるインフルエンザ等を始めとする他の感染症の影響にも留意し、今後も引き続き感染拡大防止に向けた取り組みを生徒および保護者、教職員一体となって周知徹底をお願いしたい。

「文徳点描」について、以前は毎月発行されていたと記憶しているが、年々発行回数が減少傾向を辿っており大変憂慮している。SNSが隆盛を極めている昨今、紙面での情報発信は逆に新鮮さを感じる。家庭からの生の声をうかがうことができること等、家庭と学校を繋ぐ重要なツールだと言える。発行には大変労力がかかることは十分理解できるが、貴重な伝達手段であることを今一度考察し、素晴らしい紙面作りに尽力して欲しい。一方で、中学校卒業生数が横這いの中、広報イベントや動画コンテンツを駆使し、また、各中学校で行われた学校説明会では広報部がプレゼンテーション用のパワーポイント資料を作成し分かりやすい説明を実施できたこと等で、学校見学ツアーは昨年度を上回る1,100人を超える参加者を得たことは特筆すべきことである。日頃からの広報部を始めとした教職員の努力の賜物である。敬意を表したい。

当年度も教育環境面の整備のため、5号館1階パソコン室の経年劣化したパソコンの入れ替えや年2回の学校設備不具合調査をもとに、校内のトイレの点検および不具合箇所の改修工事、文徳寮の既設照明をLED照明へ取り替える工事等、学習環境向上を目指した整備を実施されておられることが確認できた。

#### 5. 総合評価 本年度の重点目標である下記の4項目について評価を行う。

##### (1) 生徒指導

日本一品性のある学校づくりを目指して、生徒指導部を中心に「爽やかなあいさつ」「端正な身だしなみ」「丁寧な掃除」「豊かな心の育成」「校内美化」「交通安全」の6項目について取り組んだ。7月には700回目の学校交通安全日を迎えた。幸いなことに取組を始めてから59年間、登下校時の交通死亡事故は発生していない。登下校時やSHRなどの場面で、年間を通じて粘り強く指導することが生徒の意識を向上させる基本である。SNSによる誹謗中傷やいじめの報告はなかったが、潜在化している可能性を考えながら、あらゆる機会でも互いを尊重する心を育むための教育活動を続けていきたい。生活委員会の放課後の窓閉めや、交通委員会の自転車ヘルメット着用呼びかけなどの活動を通じて、自分たちの行動が誰かの生活をよりよくしていることを実感させることで、母校愛の育成に繋げていきたい。

##### (2) 学習指導、進路指導、広報活動の更なる充実

（学習指導）ICT機器を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現を目的に、年3回の授業公開WEEKを実施した。約20名の教員による公開授業・研究授業を通じて研鑽を重ねた。AIドリルさららの活用場面は大きく増加した。年間を通じた継続的に取り組むことで、学力が向上する実感を持たせたい。

（進路指導）キャリアパスポートを用いた振り返り（生徒）と、成績検討会での検証（教員）に重点的に取り組んだ。次年度はさらに、フィードバックを行うためのLHR計画とすべての教員の目線合わせを進めることで、自己のあり方生き方を考え進路実現のため主体的に取り組む生徒を育成していきたい。

（広報活動）公式YouTubeチャンネルの登録者数が1590人へ急増した（昨年度末は約100人）。学校見学ツアーで案内中の会話からも、中学生・保護者のネット閲覧の頻度が高いことが伺え、そのニーズと本校が発信したいことの両方に応えるコンテンツの作成が求められている。昨年の卒業式答辞（13万回再生）のような、学校の品性や生徒の人間性が感じられる発信をしていきたい。

##### (3) 教育環境の整備

1号館外部正面外壁補修工事、5号館昇降口扉改修工事、2号館1階多目的トイレ改修工事、文徳寮LED照明工事等、予定通り実施することができた。また、毎年7月と12月に実施している学校不具合調査により不具合箇所や危険箇所を確認し、早急な改修工事および修繕工事を実施することができた。和7年度についても点検作業を引き続き実施し、これまで通り迅速に対応したい。

##### (4) 生徒の諸活動(学校行事、部活動、生徒会活動)の充実

生徒達が主体的に学校生活に取り組む学校を目指し、各活動のプランニングを行った。多様な体験の機会を通じて、自己表現力、主体性やチャレンジ精神、多角的な視点を持つ重要性への気づき、キャリア形成の意欲などを育成していきたい。

生徒会活動では、定期的に委員会ミーティングを行って日常的な活動を推進した。体育大会・文化祭・学年別スポーツ大会ではそれぞれの実行委員会を中心に企画・運営を行うことができた。

部活動は、熊本県高等学校総合体育大会において相撲部（個人）・空手道部（個人）で優勝、剣道部・相撲部・ソフトテニス部・空手道部が団体準優勝と活躍し、全国大会や九州大会に出場した。また、全国選抜大会には相撲部、ソフトテニス部、空手道部、剣道部が出場した。特に剣道部は強豪校を破って県大会で優勝したことで、全国から注目された。

昨年度から、総合的な探究の時間での学びの成果発表として校外のコンテストに挑戦している。1年生は、崇城大学ビジネスプランコンテストに約120チームが応募し19チームが2次審査に進んだ（昨年は14チーム）。2年生は、1チームがマイナビキャリア甲子園準決勝大会（東京）に進み、別の1チームが県庁で木村知事を前に地域活性化プランを提案した。

#### 6. 次年度への課題・改善方策

- (1) 建学の精神に基づくスクールミッション・スクールポリシーの具現化（取組・評価・改善のマネジメント）
- (2) 働き方改革・長時間労働の解消（新しい校務支援システムの導入、デジタルデータ管理のあり方）
- (3) 学習指導の充実（観点別評価の改善、研修への積極的参加、情報リテラシーの向上）
- (4) 特別活動の特色化（あり方生き方を考えさせる講演会、主体的な生徒の活動、各種体験活動への積極的参加）
- (5) 中学校教育（国際バカロレア教育〔MYP〕の導入、基本的生活習慣の確立、リーダーシップ教育、教科教育の強化）